

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2022
6月号
No.752



第61回全農徳島県本部青果販売総体会議

マンスリーレポート ————— 2

- ・第61回全農徳島県本部青果販売総体会議
- ・農業大学校で水稻湛水直播試験
- ・第1回果樹部会「すだち・温州みかん園地巡回および情報交換会」
- ・大阪や京都の小学生が農産物の食育学習
- ・横浜FCvs徳島ヴォルティス戦でPR
- ・チャレンジ! マチ★アソビvol.3で徳島県産花き展示

営農コラム ————— 6

旬の野菜でおうちごはん ————— 7

- ・とうもろこし御飯

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 ————— 8

- ・その④ ～らっきょ～

交通安全のお知らせ ————— 8

- ・横断歩道における歩行者優先について

トピックス ————— 9

マンスリーレポート

～令和4年度園芸取扱販売計画389億9000万円～

第61回全農徳島県本部青果販売総体会議

5月20日、徳島市万代町の徳島グランヴィリオホテルにおいて、当県本部主催による「第61回全農徳島県本部青果販売総体会議」が開催されました。

3年ぶりの実地開催となった本会議でしたが、会場は全国の青果・花きの主要卸売市場40社の代表者、県内JAの組合長および役職員、徳島県や関係団体など関係者約150人が出席しました。

開会にあたり、主催者を代表して前田安夫運営委員会会長が「昨年度前半は数量減、後半は単価安となり、コロナ禍による業務需要の低迷も相まって年間を通じて厳しい販売環境となりました。さらにロシアのウクライナ侵攻により原材料調達や食料需給にも影響が出るなど、農業を取り巻く環境は一段と厳しい状況に置かれています。こうしたなか、当県本部の園芸事業においては広域集出荷選別施設の設置や、荷受けシステムの導入などを通じて『園芸事業のバリューチェーンの構築』を進めることで本県の『生産基盤の維持・拡大』に取り組み、農家組合員ならびに県下JAの負託に応えていきたいと考えておりますので、パートナー市場、県行政、関係団体、県下JAの皆様方の一層のご協力をお願いします」とあいさつしました。

来賓の勝野美江徳島県副知事、南恒生徳島県議会議長、徳島県農業協同組合中央会の中西庄次郎会長からはご祝辞をいただきました。

続いて、長江郁哉県本部長が、令和4年度の事業計画について次のとおり説明をおこないました。



第61回全農徳島県本部青果販売総体会議



主催者あいさつを行う
前田安夫運営委員会会長



令和4年度事業計画について説明を行う
長江郁哉県本部長

令和4年度の園芸事業の販売計画は、市場野菜305億1400万円、市場果実38億7600万円、花き・花木9億5000万円、直販事業36億5000万円の合計389億9000万円の達成に取り組みます。主な品目別には、ニンジン64億円、かんしょ60億円、ブロッコリー30億円、レンコン22億円、生シイタケ15億円、スタチ11億円などを計画しています。

また、重点取組事項としては「JAグループ・全農の最適な事業体制の構築と業務効率化」「園芸事業のバリューチェーンの構築」「生産基盤の維持・拡大」「環境問題やSDGs等の社会的課題への対応」「事業拡大に向けた消費宣伝・食育活動の実施」を掲げ、年間計画389億円の内、委託販売228億円、直接販売161億円（うち予約相対取引125億円、県本部直販36億円）を目標として取り組みます。

会議では、物流拠点、加工・ストック施設および産地への提案などの機能を具備している市場の中で、徳島県産青果・花きの販売実績にもとづき、令和4年度の重点パートナー市場25社（青果19社・花き6社）と準パートナー市場15社（青果15社）の指定がおこなわれ、市場40社を代表して徳島青果株式会社の林嘉彦代表取締役社長が長江郁哉県本部長より指定証の交付を受けました。

続く市場代表あいさつでは、神果神戸青果株式会社の原田俊一代表取締役社長が「市場の売買取引の多様化が進むなか、我々卸売市場は変化していく流通への対応力が一層求められており、特に産地に対しては今まで以上に市場からの提案を増やすことが産地の活性化につながると考えております。全農の事業計画達成に向けて、我々市場としても全力で販売に取り組みます」とパートナー市場を代表して力強いお約束をいただきました。

また閉会後には、料理研究家・料理指導者の服部幸應氏による、「もとめられる農業と食育」と題した特別記念講演がおこなわれ、出席者は熱心に耳を傾けていました。



指定証の交付を受ける
徳島青果株式会社林嘉彦代表取締役社長(右)

～直播栽培の普及へ～

農業大学校で水稻湛水直播試験

5月11日、徳島県立農業大学校の水田圃場において、水稻直播栽培技術RISOCARE(リゾケア)を活用した播種作業の実演がおこなわれました。

この実演は、当県本部営農支援課と本所中四国広域農機事業所徳島農機事務所が同大学校のプロジェクト課題学習に協力して実演され、同校学生や職員、徳島県立農林水産総合技術支援センター、シンジェンタジャパン株式会社、株式会社斗セキ中四国など関係者約20人が参加しました。

RISOCARE(リゾケア)は、シンジェンタジャパン株式会社により開発された複数の種子処理剤と独自の種子処理技術を組み合わせ、苗立ち向上や防除効果により水稻の直播栽培を安定させる技術です。(図参照)鉄コーティングなど従来の直播技術の課題に対し、土中播種により倒伏が少なく、除草剤使用回数軽減によるコスト減など農作業の軽労化や生産コストの低減、省力化が図れるなどのメリットがあります。

参加者は、株式会社斗セキ中四国営業技術部見永尚之氏から直播用乗用田植機(斗セキ田植機PZV60)の説明や作業方法の指導を受けた後、圃場(1,603㎡)で種籾(リゾケアXL)播種と同時に除草剤散布、肥料施肥をおこなう作業体験がおこなわれ熱心に見学しました。今後、学生達は播種後の栽培観察などをおこない直播栽培についての調査結果をとりまとめる予定です。

営農支援課阿部靖職員は、直播栽培技術について「徳島県内において水稻直播は全体の1%にも満たない。しかし大規模生産者においては、育苗管理を大幅に省力化できる本技術を導入するメリットは大きい。この技術が、直播栽培の一つとして生産者に認識され選択肢が広がることを期待している」と熱く語っていました。

RISOCARE® (リゾケア)とは

- 「RISOCARE®」は、シンジェンタ社が開発した技術で、複数の種子処理剤と独自の種子処理技術を組合せて、苗立ち向上や防除効果により水稻の直播栽培を安定化させる技術です。
- 「RISOCARE®」はJAにおいて直播栽培を活用した水稻の省力低コスト栽培技術として、生産者への提案に活用することが可能です。

リゾケアXLの製品概要

- 直播だけど、苗立ちが良い。秘密は種子にある。
- コーティング処理済みの種子を受け取って播くだけ。
- リゾケアXLのトリプル作用で、苗立ち安定、直播が初めての方も安心。
 - オクソスDSから供給される酸素の作用で、苗立ちが安定。
 - スクワデリアESが苗腐病による苗立ちの阻害を防止。
 - フォルテンザFSが初期害虫に対して優れた効果を発揮。



～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

第1回果樹部会「すだち・温州みかん園地巡回および情報交換会」

徳島県農業技術普及連絡協議会(会長＝長江郁哉県本部長)は5月13日、県下4JA(徳島市・東とくしま・名西郡・アグリあなん)の担当者、徳島県、当県本部など関係者26人出席のもと、第1回果樹部会「すだち・温州みかん園地巡回および情報交換会」を開催しました。

本協議会では、県内果樹の生産振興や関係機関の情報共有、栽培技術向上を目的に年4回程度果樹部会を開催しています。

第1回目の今回ですが、当県本部営農資材部営農支援課の森正樹課長のあいさつに続き、出席者全員でJA名西郡、JA徳島市、JA東とくしま管内の園地巡回をおこない、スダチの省力樹形園地や寒害被害にあった温州みかんの改植園地、温州みかんの隔年交互結実園を視察しました。

園地巡回後、JA東とくしま勝浦選果場においておこなった情報交換会では、スダチや温州みかんの生育・着花状況についてJA徳島市高橋和輝職員、JA東とくしま十河和男顧問、JA名西郡森下友裕係長、JAアグリあなん小出水沙織職員よりそれぞれ報告を受けました。今年の温州みかんは、着花が多く順調に生育しています。一方、スダチは昨年豊作だったこともあり、着花が少ない状況となっています。営農支援課の森聡技術主管は「今年は着花が少ないため、今ある果実を大事に育てましょう。今後このような大きな裏年にならないように、来年予想される表年にしっかりと着花調整を行うことが大事です」と説明しました。続いて、徳島県農林水産総合技術支援センター高度技術支援課板東康成課長補佐より、貯蔵性に優れるスダチ晩生品種「勝浦1号」の登録出願、苗木の生産、供給等について説明がありました。その他、スダチの貯蔵技術や貯蔵病害、温州みかんの簡易貯蔵、冷房貯蔵、スダチや温州みかんの省力栽培等についての発表もあり、今回は活発な意見交換会となりました。



視察をする関係者



情報交換会の様子

マンスリーレポート

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

大阪や京都の小学生が農産物の食育学習

当県本部園芸部は、子供たちに農産物を育てる大変さと喜び、また食べ物を大切に作る心や農家生産者の方々を思いやる気持ちを育んでもらうため、県内JAをはじめ、パートナー市場や関係機関との連携・協力により小学校での栽培学習会を開催しています。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、学校での開催やJA担当者の参加が難しい状況となっていますが、5月には京阪神の小学校でJA里浦の提供による「さつまいも食育学習会」を開催しました。

◆大阪市立岸里小学校

5月16日、JA里浦、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部の協力により、大阪市西成区の市立岸里小学校の2年生（66人）を対象に開催しました。

園芸部大阪事務所の佐藤広司所長が徳島県のなると金時について動画やクイズを交えて説明しました。生徒たちは、徳

島県の産地の話を大変興味深く聞き入っていました。

説明終了後は、生徒全員で校内の圃場でさつまいもの定植を体験し、初めての生徒も楽しそうに作業をおこなっていました。

なお、作業後には佐藤所長が教職員へ今後の管理方法や水やりのタイミングなどを伝えました。



説明を行う大阪事務所の佐藤広司所長



圃場で生徒に植え方を指導

◆京都市立石田小学校

5月23日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部の協力により、京都市伏見区の市立石田小学校の2年生（25人）を対象に開催しました。

JA里浦の指導経済部営農生活課の坂東尚職員が教室とJAをオンラインで繋ぎ、なると金時の特徴や、苗の植え方、上手な育て方などの説明をおこないました。生徒たちは、坂東職員か

らの質問などに元気に答え楽しそうに授業を受けていました。

説明後は、校内の圃場で生徒たちによる定植作業をおこないました。徳島県関西本部の中野裕美係長からの定植方法の説明のあと、一人に1本ずつ苗が手渡され、生徒たちは畝に穴を掘り、慎重に定植作業をおこなっていました。水やりを終え作業を終えた生徒たちは「収穫が楽しみ」と話していました。



JA里浦とオンラインで授業をする生徒



定植方法について説明を受ける生徒

◆私立立命館小学校



教室とJA里浦、京都合同青果㈱を繋いだオンライン学習会

5月23日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部の協力により、京都市北区の私立立命館小学校で2年生(116人)を対象に開催しました。

それぞれの場所をオンラインで繋ぎ、JA里浦指導経済部営農生活課の坂東尚職員は教室の生徒に向けてなると金時の特徴や苗の定植方法について説明をおこないました。生徒たちは説明される内容に静かに耳を傾けていました。質疑応答では、生徒たちから「葉っぱに虫がいたときの対処法」や「葉っぱが枯れてしまった時の対処法」「水はどのように与えればいいのか」など多くの質問が寄せられました。

同校では、後日先生指導のもと生徒たちによるさつまいもの定植がおこなわれました。

◆宇治市立平盛小学校

5月26日、JA里浦、京印京都南部青果株式会社の協力により、京都府宇治市の市立平盛小学校で同校1年生と2年生を対象に開催しました。

学習会は、圃場に近い校舎のピロティで園芸部大阪事務所の平嶋優皓職員と吉川勝職員がホワイトボードを使い、参加者(55人)にクイズを交えながらなると金時についての説明をおこないました。生徒たちは、なると金時にたいへん興味を

もった様子で、元気よくクイズに答えてくれました。

説明後、生徒全員に苗が配布され、圃場で定植作業をおこないました。定植作業が終了した後はペットボトルで自作したジョウロで水やりをおこないました。ほとんどの生徒が初めての経験だったようで、定植作業中には、美味しいさつまいも料理や、葉っぱにつく虫の駆除方法などについて質問が寄せられるなど、生徒全員が楽しく関心を持って取り組んでくれました。



説明を行う大阪事務所の平嶋優皓職員(左)と吉川勝職員



定植作業を行う生徒

～徳島県産ハウスダチの消費宣伝～

横浜FCvs徳島ヴォルティス戦でPR

5月15日、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝長江郁哉県本部長)は、横浜市のニッパツ三ツ沢球技場で開催された2022明治安田生命J2リーグ第16節「横浜FCvs徳島ヴォルティス」において、徳島県産ハウスダチの消費宣伝をおこないました。

この日は、横浜FCのホームゲームで横浜市が取り組む地産地消PRイベントに徳島県が出展、県東京本部職員がハウスダチと観光パンフレットを200人に配布し来場者へのPRをおこないました。

試合は1-2で徳島ヴォルティスが惜敗しましたが、球技場はサポーターなど3977人の熱気と歓声に包まれていました。



ハウスダチなどを配布し来場者へPR

マンスリーレポート

～花きの需要喚起へ・とくしまの花振興協会～

チャレンジ! マチ★アソビvol.3で 徳島県産花き展示

5月14日～20日、徳島市東新町のコルネの泉広場でとくしまの花振興協会(会長＝坂本雅彦副本部長)による徳島県産花きの展示がおこなわれました。

この展示は、5月14日～6月5日に開催された「チャレンジ! マチ★アソビvol.3」のイベントに合わせて徳島県産花きの需要喚起を目的として開催されたものです。

コルネの泉広場には、中央のベンチを囲むように徳島県産胡蝶蘭やユリ、シャクヤク、菊、花木などを使用した豪華なフラワーアレンジメントが設置され、色とりどりのみごとな花の美しさに家族連れなど多くの買い物客が足を止めていました。

なお、5月15日には来場者100人へ徳島県産花きの配布がおこなわれました。



コルネの泉広場に展示されたフラワーアレンジメント



来場者へ花きをプレゼント



配布された徳島県産花き

営農コラム

シロウリあれこれ

営農支援課 技術主管 隔山 普宣

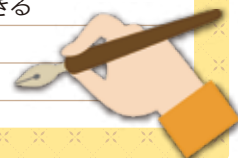
「シロウリ」という野菜を知ってますか。シロウリはメロンの仲間ですが、甘みは少なく、奈良漬などの漬物の原料や浅漬などに使われています。徳島県では戦前から藍住町で栽培が始まっていましたが、昭和30年代より食生活の高級化の波に乗り需要が増加し、昭和40年代には400haを超える面積で栽培され、栽培面積、生産量ともに全国1位の大産地でした。現在でも板野町や藍住町でトンネルニンジンの後作などで栽培が行われていますが、栽培面積は24haと激減しています。それでも全国の栽培面積の約4割を占めており、現在も全国1位の座を守っています。ちなみに全国の栽培面積は65haで、全国2位は千葉県で13haとなっています。販売先としては、ほとんどが奈良漬業者に出荷され、高級な奈良漬にはほとんどが徳島産のシロウリが使われています。千葉県のシロウリもほとんどが成田の鉄砲漬業者に出荷されているそうです。

なぜ、こんなにも生産が激減してきたのか、それは消費者の嗜好の変化です。若い人は、奈良漬を食べたことがない人がほとんどで、年齢層が上の人も昔は食べたことがあっても、今はほとんど食べてないと思います。

シロウリはカロリーが非常に低くダイエット食材と言われています。また、血圧上昇の抑制や免疫力アップに効果があるビタミンC、骨の形成に重要な役割を果たすビタミンK、貧血や動脈硬化の予防に効果がある葉酸、高血圧の予防などに効果があるカリウムなどが多く含まれています。

夏がシロウリの旬の時期です。青果用シロウリは浅漬、塩漬、甘酢漬などの漬物や塩昆布、とろろ昆布、トマトとの和え物、煮物、炒め物などさまざまな料理に活用できます。奈良漬などの漬物はごはんのお供に、カレーや鰻丼に添えて、ピールのおつまみにと色々利用できます。一度青果のシロウリや奈良漬を味わってみませんか。板野町の道の駅で青果のシロウリと徳島県産シロウリを使った奈良漬を売っています。

シロウリが藍住町や板野町のいたるところで栽培されていた情景を知っているものにとっては、青果のシロウリや奈良漬など漬物の消費を今以上に増やし、歴史ある全国1位のシロウリ産地が維持・拡大できるよう心から願っております。





とうもろこし御飯



▼材料(2人分)

とうもろこし……………1本
米……………2合
もみ海苔

A { 水……………400cc
だし醤油、塩……………各小1

▼作り方



① とうもろこしは生のまま、芯から粒を外す。



② 洗米の上にとうもろこしと芯を乗せて炊く。

③ 炊き上がったらか芯を捨てて、全体を混ぜ、もみ海苔を振る。

POINT

半分に折って、包丁で切ると外しやすくなります。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー（姫路、加古川、明石の3店舗）講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



その145 ～らっきょ～

◆鳴門の大毛島特産◆

「古事記」において五穀や養蚕の起源として書かれている大宜都比売神（おおげつひめのかみ）。大宜都比売神が須佐之男命（すさのおのみこと）に殺されたら、体の鼻や口やお尻などから稲・粟・小豆・麦・大豆などの五穀と呼ばれる穀物が発生したそう。そこから大宜都比売神は、食物の神様になる。そして粟（＝阿波）の国の女神とされている。大毛島と大宜都比売神は呼び方も一緒であり、つながりを感じている。大毛島の特産である、「鳴門のらっきょ」も、穀物と同じように、らっきょうそのものを種として植えると、分球して数が増える。その分球したらっきょうをいただく食べ物である。

ちゃん。大食いでも、らっきょを食べると体調が軽くなる。これはらっきょが血の巡りを良くする働きがあるからだと思う。いつもカレーを食べるときに言っているが、カレーには「らっきょ」でしょ。いつ食べるの。今でしょ。



◆「らっきょ」と呼ぶ◆

「らっきょう」のことを鳴門では、親しみと感謝を込めて「らっきょ」と短く呼ぶ。JA徳島北や大毛島ブランド確立協議会の制作する、ポスターや料理レシピ本なども、地元呼び名の「らっきょ」で統一されている。「らっきょ」と短く発音する方が、らっきょの形をよく表していると感じて、気に入っている。ポスターには、「日に4個 今日の良き日の らっきょかな」と句が詠まれている。この句を見た感想は、少なすぎないかな。私はらっきょがあるときは、1食で1ダース12個くらいはペロッと食べる。1日なら30個くらい食べる大食いである、ははーん、それで太っ

◆らっきょの花祭り◆

全国の生産各地が一堂に会する全国らっきょうサミットや、らっきょう祭りなどは、コロナの影響で2年間くらい開催されてないそうだが、今年の10月下旬から11月上旬頃の、赤紫の花がじゅうたんを敷いたように畑一面に咲き誇る大毛島へは、らっきょうの花見にお弁当を持参して海風を感じに行きたいと思っている。それでは、最後まで読んでいただいた皆様に、らっきょ（ラッキー）な事が沢山ありますことを祈っております。さいなら、さいなら、さいなららっきょ。

交通安全のお知らせ

横断歩道における歩行者優先について

令和3年中に、歩行中に交通事故で亡くなった方は13人（前年比+11人）、そのうち10人の方が道路を横断中に被害にあっています。歩行者事故の多くは歩行者が道路を横断中に発生しており、車の運転手が十分な注意を払っていれば防ぐことができた事故が大半です。車を運転する際は、漫然と運転するのではなく、周囲の状況をよく確認してください。

また、車を運転する際は以下のルールを守りましょう。

1 横断歩道に接近する場合

車は、横断歩道に接近する場合は、その横断歩道の直前（停止線の直前）で停止できるような速度で進行しなければなりません。

2 横断歩行者がいる場合の一時停止

車は、進路の前方の横断歩道を横断し、または横断しようとする歩行者がいるときは、その横断歩道の直前で一時停止し、歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません。

3 側方通過前の一時停止

車は、横断歩道またはその手前の直前で停止している車がある場合、停止している車の側方を通過して前方に出ようとするときは、前方に出る前に一時停止しなければなりません。



4 横断歩道手前での追い抜き禁止

車は、横断歩道およびその手前の側端から30メートル以内では、前方を進行している他の車の側方を通過して前に出たはけません。

※違反点数2点

反則金 大型：12000円 普通：9000円

二輪：7000円 原付：6000円

歩行者の方は、道路を横断するときに近くに横断歩道がある場合は必ず横断歩道を渡りましょう！

また、歩行者が最優先される横断歩道ですが、必ずしも車が停止してくれるとは限りません。自身の身を守るためにも必ず左右の安全確認を行いましょう。



～副賞・参加賞に徳島県産農産物や加工品を贈る～

「全農杯 2022年 全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部)」徳島県予選会

全農は「JA全農チビリンピック」や「WCBF少年野球教室」など、スポーツへの協賛を通じて、子どもたちの夢や成長、親子のふれあいを応援しています。

当県本部では、2013年から特別協賛している「全農杯 全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)」の2022年徳島県予選会において、徳島県産農産物・加工品などの副賞・参加賞の提供をおこないました。

5月14日、徳島県予選会が徳島市内のとくぎんアリーナ(徳島市立体育館)で開催され、ホープスの部(小学6年生以下)、カブの部(同4年生以下)、バンビの部(同2年生以下)の男女各部門に、県内から卓球少年・少女80人が参加しました。

開会にあたり、当県本部管理部の有内大輔次長が、「私たちJA全農とくしまは、徳島県産のお米や野菜・果物などの食を全国の皆さんにお届けする事業をおこなっています。JAグループが支える国産農畜産物を美味しく食べて身体をつくり、これからも練習して活躍してください。新型コロナ禍の中ではありますが、感染対策を徹底し、ルールを守り、選手みなさんは日頃の練習の成果を発揮し頑張っていたほしい」とあいさつをおこないました。

会場内では、全国大会および四国大会への出場をめざして、選手たちが大人顔負けの熱戦を繰り広げました。

表彰式では、男女各部門の入賞者に対し、当県本部から徳島県産農産物・加工品の副賞を贈呈しました。優勝者には、「徳島県産米あきさかり(5kg×2袋)」と徳島県産スダチ飲料「徳島すだち微炭酸(1箱)」を、2位には「徳島県産米あきさかり(5kg×1袋)」と徳島県産スダチ飲料「ザ・すだちカート缶(2箱)」を、3位には「徳島県産米あきさかり(5kg×1袋)」を贈呈しました。また、参加賞として選手全員に、徳島県産スダチ飲料「ザ・すだち」、「エコープもちもちミルクパン」、「食育パンフレット」などを贈呈しました。

なお、各部門の上位入賞選手は、今年7月28日(木)～31日(日)に兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸(神戸総合運動公園内体育館)において開催される全国大会への出場権を獲得しました。当県本部は、全国大会でも応援活動を実施する予定です。



全国大会を目指し熱戦を繰り広げる選手たち



バンビ女子の入賞者



参加賞を手渡す管理部有内大輔次長



選手全員への参加賞



選手への副賞



農薬を適正に使用して 『農作物・生産者・環境』の 三つの安全を守りましょう

安定的な生産のために農薬は必要な資材です、適切に使いましょう
 農薬は、病害虫・雑草への効果だけでなく、農作物への薬害や残留、環境影響などについて安全性が確保できるよう使い方が決められています。安全に使うために地域での連携を大切にしましょう。



防除対策の基本

- 病害虫・雑草が発生しにくい環境をつくる
- 発生状況を確認し、適切な資材を適期に使う
- 適切な防除ができたか確認する

農薬使用の基本

- 農薬ラベルを確認、使用方法を守る
- 周辺への農薬飛散防止対策を実践する
- 農薬の管理を徹底し、保護具を必ず着用する



農薬を安全に使用するためのお願いです ．／ 使用前・使用時・使用後の確認が大切です

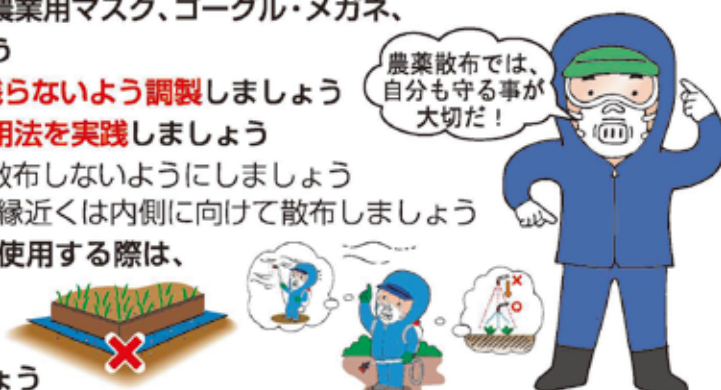
農薬の使用前に確認する事は何ですか？

- ① 農薬登録番号のある農薬を選びましょう
- ② 農薬ラベルをよく読みましょう
作物名、使用量・希釈倍数、使用時期・収穫前日数、
総使用回数、注意事項、最終有効年月を確認しましょう
- ③ 散布器具の点検を行い、前回使用時の薬液が残っていないか等確認し、**使用前に通水し洗浄**しましょう
- ④ 生産者同士、住民、他業者と連携をとり、作業スケジュールなど連絡を密に行いましょう



農薬の使用時に確認する事は何ですか？

- ① カップ天国エースなどの防除衣や農業用マスク、ゴーグル・メガネ、手袋などの**保護具を着用**しましょう
- ② 散布圃場面積にあわせ、**散布液は残らないよう調製**しましょう
- ③ 農薬飛散防止のための**基本的な施用法を実践**しましょう
 - 風向きに注意し、風の強い時は散布しないようにしましょう
 - 作物の近くから散布し、圃場の縁近くは内側に向けて散布しましょう
- ④ 育苗箱やセルトレイなどに農薬を使用する際は、**農薬がこぼれないよう注意**し、後作への影響を防止しましょう
- ⑤ 土壌くん蒸は**かならず被覆**しましょう



農薬の使用後に確認する事は何ですか？

- ① 散布器具のタンクやホースに農薬が残らないようによく洗浄しましょう
- ② 廃液は河川等の水系に流れないように注意しましょう
- ③ 水田の農薬使用後、**7日間は止水管理**を徹底しましょう
- ④ 農薬は鍵のかかる**専用保管庫に入れ管理**することを徹底しましょう
- ⑤ ペットボトル等の移し替えは誤飲の原因になるのでやめましょう
- ⑥ 圃場、作物ごとに**農薬の使用履歴を都度記録**しましょう
散布日、農薬名（剤型）、散布した量（使用量・希釈倍数）は必ず記載しましょう



農薬は 周りに配慮し 正しく使用！

2022 安全防除運動展開中
JA 全農 耕種資材部

Rinnai



毎日が洗濯日和 ガス衣類乾燥機 乾太くん

ココがすごい！ガス衣類乾燥機 乾太くん



**洗濯時間があっという間に
家事をもっと時短化**

パワフルな乾太くんなら、**5kgの洗濯物を約52分**、**8kgの洗濯物を約80分**で乾燥。電気式の約1/3の時間で済むので、家事の時間を大幅に短縮できます！※1

5kgの
洗濯物

約52分で乾燥



※1 乾燥後に5kgになる洗濯物の約です。
タオル・毛布等は濡れ上がるため5kg以下としてください。



**気になる衣類の悪臭をカット
生乾き臭の心配なし！**

80℃以上のパワフル温風で乾燥する乾太くんなら、外干しや日光消毒でも除去できないニオイを取り除きます♪



乾太くんなら菌の減少率

99.9%

※2 試験機関：豊知孝徳大学農学部 試験対象：モリタセラミックス株式会社製；菌付着物の洗濯前後比較。洗濯前後で菌も減り、乾太くんにて乾燥。



**毎日使っても
安心の低コスト**

パワフル温風で短時間乾燥の乾太くん。1回の乾燥コストは**5kgで1,950円**、**8kgで約3,160円**と経済的に使えます。

1カ月の
使用料金が

約1,950円!!

■1回の乾燥コスト：約63円（5kg）、約102円（8kg）※1



**清潔乾燥で
毎日安心！**

・天気を気にせず1年中活躍
・いつも清潔に使える、ドラム除菌運転
・花粉中のアレル物質を低減



**心地よい
仕上がり…**

ガスならではの強い温風をたっぷり送り込みながら乾燥させるので、繊維が根元から立ち上がり快適に仕上がります。



※1 ライフサイクル

お近くのJA または

ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社

☎ 088-695-5380 までお問い合わせください



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋**になります。

—私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は無料です。送付先の氏名・住所変更や、送付の停止につきましては、JA全農とくしま企画管理課広報室（電話 088-634-2462）までご連絡ください。

